



とつか
2020年9月会報 第311号

- 国際会長(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)
- 2020 主 題 “VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP” (価値観、エクステンション、リーダーシップ)
- スローガン “TRUST IN THE RIVER OF LIFE” 「命の川を信じよう」
- アジア太平洋地域会長(AP) David Lua (シンガポール)
- 主 題 “Make A Difference” 「変化をもたらそう」
- ～ スローガン “INSPIRE” 「奮い立たせよう」
- 東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)
- 主 題 「変化をたのしもう！」 “Let's enjoy Changes.”
- 副 題 「助け合い、分かち合い」 “Let's help and share each other.”
- 2021 湘南・沖縄部部长(DG) 古田 和彦 (横浜)
- 主 題 「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」
- クラブ会長 若木 一美 ・会長主題 「咲かそう 人の輪」
- 直前会長 浦出 昭吉 書記 加藤 利榮 会計 岡 進



会員ひと言

浦出 昭吉

◎今月の聖句◎

主は人の一歩一歩を定め 御旨にかなう道を備えて
くださる。

—詩編 37 章 23 節—



『想いは次々と…』

今や、多くの皆さんがスティホームの真っ盛り、スティ…などと申しますと、なんか格好良く響きますが、要するに“家に毎日閉じ籠っている”ことを意味していますね…。最近では、どうやらこのパターンも身につけては来ましたが…。生活のリズムが、今どき程変わった事は生まれてこの方、初めての体験ですね。そもそもこうなった元はといえば、いわずと知れた新型コロナウイルスによるものと言われています。なぜ‘新型’なのか…。ご存知のように、去年の12月、中国当局が武漢で肺炎の人を調べたら、ヒトに感染する7種類のコロナウイルスが見つかったが、これが、後にパンデミック(世界的大流行)を惹き起こす結果になろうとは、WHOを含め深くは考えてもみなかったようです。気が付いたら世界中に…ということで、WHOはこのコロナのアタマに‘ニュー’を…とか。そして、日本では‘3密’を避け感染拡大を防ごう…と必死になっております。一方で、今や夏の真っ盛り、お家芸の‘熱中症’にも気を遣わなければなりません。こちらの方は‘3つのトル’が叫ばれ始めております。いわく、「距離をトル・マスクをトル・水分をトル」のだそうです…。

終戦から75年、核のない平和な世界の実現に向け、何か良い解決策はないものか…と一方で想う今日この頃です。

主が 私たち一人ひとりの歩みを見ておられます。人生の祝福は、その長さよりも その内容にあります。主を愛し 主を喜び 主に喜ばれる、そのような道より優れた道は他にありません。私たちを最高に生かし、用いてくださる主にこの人生を捧げたいと願っています。

強調月間 ユース(STEP・YEETP・YIA)
ユースの3点セットになった言葉ですね…。

STEP : Short Term Exchange Program

「ユース海外短期交流プログラム」

YEETP : Youth Educational Exchange Program

「ワイズ子弟の高校留学生交換事業」

YIA : Youth Involvement and Activities

「若者のワイズ活動への参画・活動」

いずれも、ユースに繋がるワイズ活動です。

これらの制度が始まった30年ほど前には、かなり活発な交流活動が国際ワイズの間で行われていたが、今はユースボランティア・リーダーズフォーラムのみの観がある。

8月在籍者数	8月出席者数	出席率	ファンド	B	F	B	F	CS・TOP・	B A P Y	ロ	バ
メ	ン	12	メ	ン	9	83%	他	(円)	(g)	(円)	(円)
メ	ネット	8	メ	ネット	2		前月迄		0	0	0
			ゲストら		1		当 月		0	0	0
計	20	合計	12				累 計		0	0	0

★強い義務感を持つと 義務はすべての権利に伴う★

☆法人化を目指す～ひとり言～☆

若木 一美



東日本区は法人化へ向けた準備を進めている。私が初めて法人化に取り組んだのは平成5年でした。別に関係する団体が任意団体として36年の歴史がありましたが、任意団体のため、受託できる事業や資金に限界がありました。

しかし当時、社団法人は3千万円、財団法人は3～5億円といわれた基本財産の捻出に難しさがあり、閉塞状態が続きました。その後、平成7年(1,995年)1月に発生した阪神・淡路大震災、平成9年に発生した日本海重油事故では従来の社会システムにはない大きな市民運動のうねりがありました。

ボランティア元年と呼ばれた背景もあり、多くの市民活動団体が切望していた法人化を容易化する動きに弾みがつき、平成10年3月25日法律第7号で「特定非営利法人活動促進法」が成立しました。同年12月1日施行された直後に検討会を再発足し、その準備に当たり任意団体を改組して翌年11月10日に法人登記が完了し、念願の法人化が設立されました。

改組するに当たっては、会員の位置づけや理事の人数、法的な責任等々、多くの課題がありましたが、法人化 ➡

する目的が明確でしたから、僅か半年で設立総会を迎えることができました。その後も他県の同一の活動目的の団体が法人化する際には、お手伝いをさせていただきました。

また、一方では、社団法人・財団法人、それぞれ一つひとつの解散にも関わりました。いずれも職員・施設を持つ法人であり、職員の再就職や施設の管理など、色々と問題もありました。

標題に掲げた東日本区の法人化ですが、最も大切なことは、法人化することにより、何をを目指すのか？ 法人化で体裁が良くなる、会員が増える、認知度が増す…などという視点のみに留まらず「法人化することにより、何が出来るようになるのか…？」ということも考えていきたいと思うこの頃です…。

東日本区法人化検討小委員会委員のひとりとして思う～ひとりごと～です。

(若木さんの言われることは、いちいちごもっともなことばかりです…。残る期間、委員ともどもに、この「ひとりごと」を念頭に進めますので、実務経験豊かなご意見・ご指導を宜しくお願いします。TK)

☆部エクステンション委員会から☆

浦出 昭吉

日時等：8月19日(水)11:00～12:30・中央YMCA606号室

出席者：伊藤幾夫会員増強事業主任・委員会委員13名



伊藤RSDの挨拶の後、辻委員長から、部評議会において承認済みの「会員増強計画」の目標達成(22年12月末)の基本方針に変わりはないが、なお

以下の事項に留意し、活動に弾みを付けたい旨、説明があった。

- ① 部内各クラブが今年度迎える周年記念に留意し、また、昨年度は沖縄から部長を輩出するなど、部の歴史の上で大きな意味を持つことができた。
- ② これらを契機に今年度は会の意識高揚につなげたい。
- ③ 沖縄那覇クラブ会員の早期復帰に協力する。
- ④ 「つながりマスク」を引き続き実施する。
- ⑤ コロナ禍などによる外部的な障害もあるが、目標達成に向け、各位の前向きな取組みを期待する。

また、伊藤RSDから、アクションプランIIの追加として、HAPPYプラン(Happy Anniversary Present Plan by Y's men の略称)の推進に関する件について、Change! 2022プロジェクトに繋げ、会員増強を進めたいと説明があった。

出席の委員から熱心な質疑があり、特に90周年を迎える



横浜クラブが部長も輩出の意義深い年に当ることが確認された。閉会の後、有志は昼食会に参加した。

☆第2例会報告☆

若木 一美

日時等：8月18日(火)・18:30～20:00・湘南とつかYMCA

出席者：浦出・吉原(2)・加藤・岡・柴原・瀬戸・土方・若木

熱中症やコロナに負けない「一服の清涼剤」(例会)が処方されました。

【報告】

- ① 横浜クラブ創立90周年になります。9月10日には加藤ワイズが出向かれ卓話をします。都合のつく方は、中央YMCAで開催される横浜クラブの例会にどうぞ…!
- ② 湘南とつかYMCA運営委員会第3代運営委員長に就任された吉原ワイズから委員会の状況やご自身の課題等について報告がありました。
- ③ 瀬戸担当主事から、コロナで影響を受ける専門学校生及び7月豪雨災害への支援、9月1日開催のY-Y's協議会、チャリティーラン等につき案内がありました。

【協議】

- ① 9月5日・山中新館長による卓話・食事提供はナシ!
- ② 「十勝ジャガイモ」は、鎌倉クラブの動向を見極めたうえで、両者協議する。
- ③ 年会費につき、岡会計からの提案・協議の結果、今期は、36,000円とする。

前年度の決算額に準じ、執行した会計処理を目安に作成した予算書を新たに作成することとした。

コロナ関連の支援金として10万円を計上し、使途先は今後協議する。

- ④ 「つながりマスク」は、引き続き協力をお願いする。
- ⑤ 10月以降の日程を確認した。(本号4ページ参照)

以上

【特別寄稿】 「2000個のショルダーバッグ」

元西日本区理事 柴田 善朗 (京都)



今から 32 年前の 1988 年 7 月、ワイズメンズクラブ第 58 回国際大会が京都・宝ヶ池の京都国際会議場で開催されることになり、全国のワイズメン、メネット、そして国際の名に相応しく、海外からのお客様をお迎えするために、現地では、その準備に大わらわであった。

私は京都めいぶるクラブに入会后 5 年も経たない新入りで、自クラブ以外に名前を知る人が少なかった。指示を受けて、京都エイブルクラブの塩田吉隆さんと二人で、主として台湾、韓国からのお客様を担当、受付の準備に取り組んでいた。

開会日の前日、場所は失念したが、登録受付に従事する人たちが集合したとき、古参のメンバーから発言があり、内外の参加者に手渡しお土産を兼ねたショルダーバッグの準備が全く未完成で、16 時までに 2000 個を大会会場に搬入しなければならないが名案はないか…と。時刻は午前 10 時過ぎ、刻々と時は流れ、半ば他人事のように聞いていた私は、諸先輩の表情に焦りの様子が見えたので、新人ながら発言してしまった。「お引き受けしましょうか?」

思いつきの言葉とは申せ、大変なことに…。よく確かめてみると、バッグの内容として、期間中の食券・大会の予定表・会場内の配置図・京都市内地図・メモ用紙・ティッシュ・ボールペン…など、十数種の物品を封入するらしい。およそ 20 名のメン、メネットのご協力を頂き、ロの字型のラインを作り各人が持ち場を担当することになった。申し合わせとして、それぞれが自分の担当する物品のみを扱い、隣りの人が滞貨させても助けない専念方式とし、万一、一部で流れが詰まれば、流れのすべてを止め、待機する応援者が手伝う。□の中央で何も動かさず眼だけ動かしていた私を見ていた人はフシギに思っただろうナ…などとフト思った。

流れの終わりは、バッグの中身の検品と 20 個を一組として段ボールに入れて発送する仕事で、この担当は自クラブのメネットさん方にお任せした。

定刻午後 4 時、2000 個のバッグ全数着荷の連絡を受けたとき、一日の疲れが一瞬に消えたのを覚えている。当時の日本区は東も西もなく、素晴らしい 3 日間の国際大会だった。叶うことなら、今や故人となられた諸先輩に、心よりお礼を申し上げたい心境にある。

(柴田様、お忙しい中 素敵なご寄稿頂き有り難うございました。)

☆横浜クラブの例会から☆

加藤 利榮



8 月 27 日 (木) 18:30 からの第 2 例会に出てきました。当夜のメインが、大江 浩さんによる「希望の扉～なぜなら、私は弱いときこそ強いからです」のテーマで、「国境なき医師団」の中村哲医師に関する卓話を聴くためでした。

話は PC 画面併用しての期待通りの内容でした。(写真)

第 2 例会ながら、会場への出席者 18 名、ZOOM によるもの 12 名、計 30 名からの参加者、大変に盛会でした。

☆横浜クラブ 90 年に寄せて☆

加藤 利榮

何の因果か存じませんが、私はヨコハマクラブのチャーター年 (1930 年) に生まれているので、クラブと同じ年です。以下、'年寄りの思い出話' に過ぎませんが…。

入会は 1959 年 4 月、以前からのお知り合いだった横浜クラブの高杉治興さんの紹介で入会、同時に横浜 YMCA の維持会員にもなりました。入りたての頃は、どちらを向いてもリッパな年配者ばかり…。でも、それから間もなく東京から来られ総主事になられた高橋四郎さんや安永和夫さんとは、殊の外、親しくなっていました。入会後の 10 年はスリープ期間、まったくの「鳴かず・飛ばず」でした。

(この辺の事情は、東京西クラブ・2019 年 12 月号ブリテンに、吉田明弘さんのインタビューで 1 ページにわたり所載)。

ところで、ヨコハマは今までに 4 つのクラブを産みました。

- ① 1963.12.15・熱海クラブ・会員 57 名
- ② 1966.10.27・沖縄那覇クラブ・会員 23 名
- ③ 1992. 3.15・鎌倉クラブ・会員 26 名
- ④ 1994. 3.19・横浜とつかクラブ・会員 25 名

そのいずれのチャーターナイトにも出席した記憶がありますが、特に③の鎌倉の時は当方が理事の時に、また、④のトツカの場合は、地元ということからヨコハマを飛び出し、設立準備委員長という後にも先にも退けない立場にあったことを、今でも生々しく・懐かしく思い出します…。

今、手元の「国際ワイズメンズクラブ協会日本区会員名簿 (1968 年版)」を見ると、横浜クラブは、「東副区・南東部」の 5 番目に 29 名の会員が登録・記載されています。

さて、いつまでも感傷めいた感慨に耽ってもおられません。温故知新、今こそ 90 年の節目を機に、古豪クラブの実力を内外に示すべき時と心得ますが、いかが…。

レザン通信

横浜 YMCA ワークサポートセンター レザン 相馬良文

YMCA が休館となった 1 週間はワークサポートセンターも休館しておりました。今年はコロナと猛暑の影響から、利用者の健康維持の方策を考え、「アンジュとレザン」合同の生活支援プログラムを 8/11~14 に実施しました。

グループホームに住んでいる方たちは、休みの期間中は一歩も外に出ないこともあり、生活のリズムを崩しがちでした。そんなことから、仲間と過ごす時間を提供するプログラムに 4 日間で延べ 40 名が参加し、お陰で、休み明けの通所も、大変スムーズに行えました。(写真)

各自、自分のペースで過していても、近くに仲間の声があり、気配を感じる事が安心した生活につながっていることに気付かされました。

職場の環境と生活環境の両者の向上がより良い生き方への近道・学びとなるよう今後とも、取り組みを続けていきます。



～ニュースタANDARD～

1年前を考えると、様々なことが変わりました。私たちの働きで大きく変わったのは、「キャンプ」です。まず、企画の段階から夏休みはいつからになるのか…? どのようなコロナ感染対策を講じるのか…? 果たして、企画をしても参加者が集まるのか…? 等々、例年とは大きく異なる方法での実施となりました。移動のバスは密になるので、現地集合・解散、原則、活動中は出来るだけマスクの着用、宿泊の部屋の人数の半減など、様々な準備をして、参加者を迎えました。

三浦、富士山のYMCA キャンプ場で実施しましたが、結果として、多くの参加者が集まり、完全に無事に終了しました。この夏の経験を生かして、次の冬に向けての更に安心・安全なキャンプを企画・実行していきます。

一方で、従来と変わらないものもありました。毎年行う8月のプール掃除です。毎年多くのボランティアの皆さんにご協力をいただき、プール掃除をしています。今年も学生・リーダー・保護者などの多くのボランティアが集まってくれました。感染対策をしながら、チームに分かれて出来るだけ人同士が接触しない様に配慮はしましたが、例年と変わらぬボランティアに支えられて清掃ができたことに、改めて彼らボランティアの力を感しました。

これからも、変わるものは柔軟に受け止め・変化させて、また変わらないものはしっかり守りながらYMCA活動をしてまいりたいと思う夏でした。



☆今月の歳時記から☆

‘秋澄む あきすむ’ と ‘秋の水 あきのみず’

‘秋澄む’、季節は移り秋になりました。空気は澄み、遠くの山が良く見えるようになります。日本の近くを低気圧が過ぎたあと、大陸からの移動性高気圧がやってくるので、上空からの澄んだ空気が降りてきて、空が澄み渡る現象とか…。

モノの音も澄んではっきりと聞こえるような気がします。

秋澄む日さし入りがたし黒部川 秋桜子

露晴れて岩場の修羅も秋澄みぬ 吐天

秋澄むや椽の木早き実を落す 桐明

水涼し秋澄む関のかざり鎗 蓼太

次に‘秋の水’、秋になると、水のあるところ一川の淵によどむ水、器の中の水、くりやの水、どこにある水も良く澄んでくる。秋水は、曇りのない利刀の譬えにも用いられている。

秋の水人の目ざめに石はしる 碧雲居

魚の眼するどくなりぬ秋の水 紅緑

身がはせば色変る鯉や秋の水 汀女

ひとつ蚊を打って真近に秋の水 龍太

(乍)



☆ 9月・10月のこよみ☆

- 9/1 (火) 第88回Y-Y's協議会:中央YMCA606号/19:00
- 9/5 (土) 第1例会:湘南とつかYMCAホール/18:30
- 9/10(木) 横浜クラブ第1例会:中央YMCA606号/18:30
- 9/15 (火) 第2例会:湘南とつかYMCA 205号室/18:30
- 9/25(金) BAPY委員会:中央YMCA501号室/18:30
- 9/28(月) 湘南とつかYMCA運営委員会:1階ホール/18:30
- 9/30(水) 部エクステンション委員会:中央YMCA/11:00
- 10/3 (土) 湘南・沖縄部部大会:湘南とつかYMCAホール
- 10/20 (火) 第2例会:湘南とつかYMCA 205号室/18:30

～Happy Birthday～

有田征彦さん 9月20日

浦出昭吉さん 9月27日

佐藤康子さん 9月11日

山中奈子さん 9月15日

【掲示板】

会長

◎ 9月第1例会について

- ① 例によって、食事なしです。
- ② 卓話:山中奈子館長
- ③ 例会終了後、簡単なお食事会を開催する予定です。

◎ 9月10日(木)・横浜クラブ第1例会について

- ① 関内中央YMCAにおいて18:30～開かれます。
- ② 当夜のメインは、加藤ワイズの卓話が予定されています。ご都合のつく方は、是非ご出席願います。
- ③ 本年は、横浜クラブ開設90年に当たります。12月12日(土)・中央YMCAにおいて 記念式典が開催される予定です。

◎ 10月3日(土) 湘南・沖縄部部大会について

- ① 例年、中華街か山下町辺りの飲食を伴う会場で開催されてきましたが、今回は湘南とつかYMCAホールにおいて、懇親会抜きで行われます。
- ② 10月第1例会に振り替えますので、今からご予約ください。
- ③ 詳細は、9月第2例会でお知らせします。

◎ 「横浜クラブの例会から」(3ページ)の補足について

(この項、加藤ワイズより)

以下の文章を、末尾に補足させていただきます。

「中村哲さんで思い出すのは、今から15年ほど前の04年10月11日、『医は国境を超えて』のテーマで、中村哲氏講演会を横浜YMCA120周年記念行事として、ハマ銀ホール・ヴィアマーレにおいて一般に公開し開催、その折の執行委員長を仰せつかったことを懐かしく思い出しておりました。」

(後記)

コロナ熱中症にもめげず、いまこそ Change!2022…。(T/K)